

尼崎アスベスト訴訟

国の不作為、クボタの安全配慮義務を訴え

旧クボタ神崎工場周辺で環境曝露によるアスベスト被害を訴えている山内康民さんらの裁判は、6 年目を迎えた 7 月 12 日、22 回目の口答弁論が行われた。

弁護団は、副作用発生後迅速に対応したMMRワクチン国賠判決 (国無罪) の例も示し、発ガン性が明らかになった 60 年代以後も実効ある安全規制を行使しなかった国の不作為を指摘した。次回は 9 月 2 日。10 月から証人尋問が始まり、来春には結審の予定。

またクボタの孫請け会社でアスベストの運搬作業に従事し、アスベストによる死亡が判明した男性の遺族・山本美智子さんらの労災型裁判は、7 月 15 日に 9 回目の口答弁論が行われた。

弁護団は、直接雇用関係にない出入りの運送会社従業員にたいしても安全配慮義務があったとして賠償を求めたニチアス事件を例に、「直接雇用関係以外には安全配慮義務はない」とするクボタに反論。国に対しても、安全規制の徹底が不十分だったと不作為を指摘した。次回は 10 月 7 日。

労災認定されたものの、原因がアスベストとわかった時点で 2 年の時効を過ぎていたとの理由で、労災の休業補償が不支給とされた松本博さんの行政訴訟裁判は、9 月 15 日に判決を迎える。

アスベストが原因とわからずに亡くなった被害者は労災で遡及救済されなかったことが社会問題となり、「アスベスト新法」により遺族補償がなされることになったが、松本さんのような「生存被害者」には労災、新法いずれも適用されず、その隙間を指摘した裁判の判断が注目される。

アスベスト関連裁判では、大阪府南部の零細紡績工場の元労働者らが国の不作為を訴えていた泉南アスベスト国家賠償控訴審が 8 月 25 日に判決を迎える。



立ち止まって署名に応じる母親

両県立病院跡地に病院の誘致を

「県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会 (県塚の会)」は 8 月 2 日、阪急塚口駅前で、新病院建設の基本計画の完全実施や両病院跡地に一般病院を誘致するよう求めた署名街頭宣伝を実施。「塚口病院の跡地に病院を」との呼びかけに、120 筆の署名が集まった。また 8 月 5 日の塚口病院前の宣伝では、135 筆が集まった。

会では 10 月末までに 1 万筆を目標に取り組んでおり、現在まで 2,000 筆以上の署名を集約している。

「県立尼崎病院と塚口病院の統合再編基本計画に対する要望署名」にご協力ください

尼崎支部の会員医療機関に送付させていただいております。10 月末までにご返送お願いします。追加でご協力いただける方は、協会事務局までご一報ください。

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

324 号

2011 年 8 月 25 日付

〒 660-0055 尼崎市稲葉元町 2-11-10 八木クリニック内
兵庫保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011



新幹事就任のご挨拶

< 第一弾 >



細見医院 (武庫元町) 院長 細見基信先生

この度、尼崎支部の幹事就任いたしました細見基信です。兵庫医科大学で消化器内科に 18 年間奉職の後、平成 8 年 4 月より武庫之荘地区で内科・消化器内科を中心に医療活動を行っています。

最近、在宅医療や緩和ケアにも取り組んでいますが、保険診療を行っていくうえで、常日頃から考えていることは、保険診療の矛盾点です。二年毎の医療改正とは名ばかりで (むしろ改悪で複雑になるばかりで)、なかなかすっきりと筋の通った保険制度になっていない現状を少しでも理解し、本当の意味での改正につながってほしいと願っています。

会員の持っている情報を共有し、日々の診療における保健医療制度の矛盾点や整合性などを勉強しながら、医療人は納得し、患者さんにはより良い医療を提供できるように、少しでもお役に立てるようご協力したいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



おおはら内科循環器科クリニック (稲葉元町) 副院長 両角隆一先生

この度、尼崎支部幹事に就任いたしました両角 (モロズミ) 隆一です。私は、大学卒業後、大学病院他、地域の基幹病院で循環器の専門医として長らく働いておりました。その関係もあり、社会全体の医療・福祉の有り様について考える機会はほとんどありませんでした。そして、地域医療に携わるようになりまして約 2 年になりました。その間、保険医協会尼崎支部の先生方のお話を聞く機会があり、医療・福祉の現状の一端を知るとともに協会の皆さんの活動を垣間見ることができました。今後は、幹事としてさらに理解を深めていこうと考えております。よろしく願いいたします。



尼崎支部は7月16日、尼崎労働福祉会館で第40回支部総会を開催。
記念企画・映画『祝の島』上映会には会員医療機関のスタッフ・市民ら75人が参加した。
以下、アンケートによる感想を紹介する。

75人中18人回答(回答率24.0%)

1. 映画『祝の島』の内容はいかがでしたか？

☐よかった 18 ☐ふつう 0 ☐よくなかった 0

- ・島のおじいさん、おばあさんたちが理知的だと思った。失礼だけど意外だった。(その他)
- ・島の実態、実生活がわかってよかった。(その他)
- ・最初に美しい海と港、船から降りる人々を見て、のどかな風景と思ったが、一転、島の人々の座り込みに始まり、激しい原発反対の声に思わず逃げ出したくなった。のどかに生活している島の人々を見て、賛成意見の多い中、島の人々だけが28年間も反対運動を続けているのは大変だがよく理解できた。こののどかで美しい風景を守ってほしい。(看護師)
- ・28年間も原発反対のたたかいをしているなんて、まったく知らなかった。祖先から受け継いできた豊かな海と山を守る素朴な気持ちで続けていることに感銘した。(その他)
- ・「先祖から受け継いだ美しい海を子、孫に引き継ぎたい」という思いで「原発反対」していることを自然に納得できるものだった。すばらしい内容だった。(教員)
- ・原発はいらない。自然を守ろう。島人の気持ちがよくわかった。(その他)
- ・信念を持って次の世代へ渡す自然を守ることの大切さを教えられた。(主婦)
- ・原発に反対する地元の方々の気持ちが理解できる映像だった。いろいろ考えさせられるきっかけになった。(会社員)
- ・自然を糧に生きる人々と不自然の象徴のような原発との対比が島の生活を淡々と描くことで浮き彫りになり良かった。(研究者)
- ・事故後、島の方々はどう思ったのか、何か変化があったのか知りたい。(主婦)
- ・原発問題が一旦持ち上がると自然破壊だけでなく、人間関係も壊す。(会社員)
- ・子孫へ自然を残そう、は感激。(医師)
- ・生活感にあふれた足が地についた反対運動なので、観ていて自然に受け入れることができた。賛成派の人と話し合っている場面に共感を覚えた。友人、親族を引き裂く争いが一番つらいという場面に真実があるように思う。(医師)
- ・島の生活密着と少しの笑いが逆に考えさせられて良かった。(その他)
- ・反対の人も推進の人も、いろいろな理由があるが友達や親戚の人がバラバラになってしまうのが本当に残酷だと思った。もっともっとたくさんの人々に観てほしい。(会社員)
- ・島の人たちの言うことはまったく正論。(自営業)
- ・島の人々の生活がよく描かれていて、見ごたえがあった。生活の根っこを守るために自然と原発反対を言わざるを得ない様子がよくわかった。(教員)

2. 日本の原発行政についてご意見をお聞かせください。

- ・もっと原爆体験やチェルノブイリ等の被曝者の体験を掘り起こして知りたい。(その他)
- ・深く考えさせられた。環境問題や経済問題などありよく考えて国益向上を図らねばならない。世界平和のためにも。(その他)
- ・現在の生活で電力なしでは難しい。福島原発事故だけでなく、東北の早期復興と日本の景気安定を目指していかなければならない。(看護師)
- ・政治家に将来の日本を支える子どもの生活を考える視点を持ってほしい。(教員)
- ・脱原発に向かうべき。原発関連予算を自然エネルギーへまわせば十分可能。「安全神話」を進めた人は皆責任をとるべき。(その他)
- ・反対！必要ない。孫と子、人類の命が続く末代まで、原発の負担が重くなっていくことが心配。(主婦)
- ・今回の事故で日本の原子力行政の問題点が明らかになったと思う。今後、日本人全員が原発について本気で考えるきっかけになったと思う。(会社員)
- ・安全性も経済性もないものを続ける意味がわからない。(研究者)
- ・脱原発しか日本の生きる道はないと思う。(主婦)
- ・きちんと処理する方法がなく、事故が起こった時に対処できないものは作るべきではない。(会社員)
- ・生命、健康と原発推進が矛盾することを大いに議論したい。(医師)
- ・原発廃止に向けて方向を変えてほしい。これから生きる若い人たちのために。(主婦)
- ・原発は一日でも早く止めてほしい。止め方も捨て方もわからないものは必要ない。(会社員)
- ・事故がなくてもコントロールしきれない「火」に手を出すべきでない。(その他)
- ・「絶対大丈夫!」「日本では事故は絶対起こらない!」これは原発だけではない。戦争の時からいつも日本ではよくこうした言い方をする。そして事故が起こったら、誰も責任はとれない。(教員)

震災復興住宅・金楽寺 健康教室

高齢者の日常生活での熱中症対策を学ぶ

震災対策として取り組む、金楽寺復興住宅での健康教室を7月27日に開催。今回は「熱中症の予防について」をテーマに、細川内科医院(東園田町)の細川隆久先生が講師を務め、入居者11人が参加した。

講師は、熱中症になるからだの仕組みを説明した上で、予防のポイントを解説。①こまめに水分の摂取が大事だが、塩分はあくまで治療であり、汗をかいた時など以外はなるべく摂取しないこと、②体温調節は自分ではしにくいため、温度計で計るなどしてエアコンで調節すること、③熱中症は急におこるため、おかしいと思えば迷わず救急車を呼ぶことなど、高齢者が特に注意すべき点を強調した。



脱水の兆候などわかりやすく解説